

令和7年度 学校評価報告書(松山市教育委員会統一様式)

学校番号	
小	106

【評定】 4:とても思う(あてはまる) 3:やや思う(あてはまる)
2:あまり思わない(あてはまらない) 1:全く思わない(あてはまらない)

松山市立 清水小 学校

【総合判定】 A:肯定率の平均が90%以上
B:肯定率の平均が60%以上90%未満
C:肯定率の平均が60%未満

学校長 桐山 真美

※ 肯定率とは、評定(%)の評定4と評定3の合計値です。 ※ 色が付いているセルのみ入力してください。

評価領域	評価指標	総合判定	対象	肯定率	評定(%)				評定平均	○成果 もしくは ◆改善策
					4	3	2	1		
教育課程・学習指導	学校は、松山の授業モデルをもとに、一人一人が分かる喜び、共に学ぶ喜びを実感できる授業を行っている。	A	教職員	100	33	67	0	0	3.3	○松山の授業モデルをもとに、常に授業の相対性を意識した授業を行った。 ◆話し合い活動を更に充実させることで、対話的協働的な学びを深めていく。
			学校関係者	100	56	44	0	0	3.6	
	学校は、教科等の指導においてアナログとデジタルそれぞれのよさを適切に生かした授業改善に取り組んでいる。	A	教職員	100	61	39	0	0	3.6	○タブレットに掲載されているアプリを効果的に使い作品作りや発表に生かした。 ◆タブレットの使い方に関する指導を、年間通して繰り返し行う必要がある。
			学校関係者	89	67	22	11	0	3.6	
	学校は、児童生徒の学力や体力の状況を把握し、それらの充実に向け計画的に指導を行っている。	A	教職員	100	50	50	0	0	3.5	○各種調査から本校児童の学力や体力の状況を把握することができた。 ◆効果的な指導方法や家庭との連携について改善を図っていく。
			学校関係者	100	75	25	0	0	3.8	
	学校は、地域に根ざした教育を行い、郷土を大切に思う児童生徒の育成に努めている。	A	教職員	94	11	83	6	0	3.1	○いきが交流センター等地域との交流を通して、地域のよさを体感することができた。 ◆交流内容を見直ししたり、新しく開発したりすることも必要になってきている。
			学校関係者	100	78	22	0	0	3.8	
人権・同和教育・生徒指導	学校は、人権・同和教育の視点に立ち、いじめや差別を許さない意識や態度を育てている。	A	教職員	100	83	17	0	0	3.8	○いじめ0の目的取組等により、互いのよさを認め合うあたたかい雰囲気作りができた。 ◆全教職員と児童との関わりを深め、児童が安心して相談できる環境作りに努める。
			学校関係者	100	56	44	0	0	3.6	
	学校は、「学校のきまり」など生徒指導体制の見直しを行い、児童生徒の実態に応じた適切な指導を行っている。	A	教職員	100	67	33	0	0	3.7	○機会をとらえて学校のきまり等の見直しを行い、実態に合った指導を行うことができた。 ◆教職員による指導方法や家庭との連携について改善を図って指導を行う。
			学校関係者	100	50	50	0	0	3.5	
キャリア教育	学校は、将来に夢をもち、自分の進路や生き方について考える児童生徒を育てている。	A	教職員	100	41	59	0	0	3.4	○友達みずのふたつとの交流活動を通して、将来の見通しを持たせることができた。 ◆外部講師を招いた授業を積極的にを行い、子どもたちの視野を広げていく必要がある。
			学校関係者	100	33	67	0	0	3.3	
安全管理	学校は、児童生徒に交通安全やけが等の防止について適切な指導を行うとともに、安全な環境づくりに努めている。	A	教職員	94	17	77	6	0	3.1	○命が大切だという指導を繰り返すことを通して、安全に対する意識を高めることができた。 ◆下校の様子や放課後の過ごし方について、地域の協力を得られるように働きかけていく。
			学校関係者	89	56	33	11	0	3.5	
保健管理	学校は、家庭と連携して個々の健康状態を確認するとともに、環境衛生の維持・改善を行い、児童生徒の健康保持・増進に努めている。	A	教職員	100	67	33	0	0	3.7	○Otoeruを活用した健康観察等が定着したこと、健康状態の把握が正確にできている。 ◆全教職員が校内の衛生管理に気を配る意識を高めていく必要がある。
			学校関係者	100	56	44	0	0	3.6	
	学校は、換気や手指衛生などの基本的な感染症対策を行っている。	A	教職員	100	28	72	0	0	3.3	○手洗いや換気など、基本的な感染症対策を適切に行うことができた。 ◆マスクの着用や予備マスクの準備がおろそかになることがあったので、指導を継続する。
			学校関係者	100	67	33	0	0	3.7	
特別支援教育	学校は、特別支援教育の視点をもって取り組み、個に応じた配慮や指導を適切に行っている。	A	教職員	100	67	33	0	0	3.7	○特別な支援が必要な児童について情報を共有し、意識統一して対応することができた。 ◆支援員の効果的な活用方法を考え、増員を要望し続ける。
			学校関係者	100	50	50	0	0	3.5	
組織運営	学校は、管理職や学年主任等を中心とした組織的な対応を行っている。	A	教職員	95	67	28	5	0	3.6	○学級運営に困り感を抱いている教員へのサポート体制を構築し、日々取り組んでいる。 ◆より風通しのよい組織づくりができるよう、改善に努める。
			学校関係者	89	56	33	11	0	3.5	
研修	学校は、子どもたち一人一人が分かる授業づくりや、様々な教育課題への対応に向けて、積極的に研修に取り組んでいる。	A	教職員	100	61	39	0	0	3.6	○対話的な学びを取り入れた授業展開を継続することで深い学びにつなげることができた。 ◆様々な教育課題に対応するため、実践的な取組について研修を深めていく必要がある。
			学校関係者	100	56	44	0	0	3.6	
保護者・地域との連携・情報提供	学校は、教育活動の充実に向けて地域や保護者と連携・協力している。	A	教職員	100	50	50	0	0	3.5	○コミュニティスクールの実施に向け、地域の方々との連携が進みつつある。 ◆関係者間の意識統一を図ることができるよう、具体的な話し合いを進めていく。
			学校関係者	100	78	22	0	0	3.8	
	学校は、学校・学年だよりやホームページ、配信システム等により、積極的に情報を発信している。	A	教職員	100	67	33	0	0	3.7	○学校だより、学年だより、ホームページ等、機会をとらえて情報を発信することができた。 ◆内容の質の向上に努め、よりタイムリーな情報を提供できるように努める。
			学校関係者	100	89	11	0	0	3.9	
教育環境	学校は、言語活動の充実及び展覧会の工夫等の環境整備に努めている。	A	教職員	100	83	17	0	0	3.8	○季節や行事等に応じた展覧会や活動の様子を紹介する展覧会をすることができた。 ◆個人情報に配慮しながら、児童の作品を積極的に展覧会に生かしていく。
			学校関係者	100	88	12	0	0	3.9	
幼保小中連携	学校は、小1プロブレムや中1ギャップの解消につなげるために関係園・校で連携し、児童生徒の学校生活に対する不安感の軽減を図っている。	A	教職員	100	33	67	0	0	3.3	○進学の機会をとらえて、関係園や中学校との連携を深めることができた。 ◆授業参観や共にできる活動を日常的に行うことができるような連携を目指していく。
			学校関係者	100	22	78	0	0	3.2	
	学校は、関係園・校で連携して児童生徒への理解を促進するとともに、系統性を重視した学習指導を行っている。	A	教職員	100	44	56	0	0	3.4	○幼保中との連携を進めることで子どもたちの様子について情報共有を行うことができた。 ◆教科主任等を中心に、系統性を重視した学習についての研修を深める必要がある。
			学校関係者	100	33	67	0	0	3.3	

令和7年度 保護者アンケート結果

【評定】 4：とても思う（あてはまる） 3：やや思う（あてはまる）
2：あまり思わない（あてはまらない） 1：全く思わない（あてはまらない）

	質問項目	評定（％）				平均値
		4	3	2	1	
①	学校は、一人一人が分かる喜び、共に学ぶ喜びを実感できる授業を行っている。	36	58	6	0	3.3
②	学校は、教科等の指導においてアナログとデジタルそれぞれのよさを生かした授業改善に取り組んでいる。	39	56	4	1	3.3
③	学校は、児童の学力や体力の状況を把握し、計画的に指導を行っている。	36	60	4	0	3.3
④	学校は、いきがい交流センターしみずや他校等との交流を深め、「ふるさと清水」を愛する児童の育成に努めている。	65	34	1	0	3.6
⑤	学校は、いじめや差別を許さない意識や態度を育てている。	40	53	5	2	3.3
⑥	学校は、将来に夢をもち、自分の進路や生き方について考える児童生徒を育てている。	30	58	12	0	3.2
⑦	学校は、命を守る安全教育や防災教育を推進している。	47	52	1	0	3.5
⑧	学校は、児童の健康状態を確認し健康的で規則正しい生活を送る児童を育てている。	47	46	7	0	3.4
⑨	学校は、状況に応じた感染症対策を適切に行っている。	32	64	4	0	3.3
⑩	学校は、特別な教育的支援を必要とする児童に対して、個に応じた指導を行っている。	39	58	3	0	3.4
⑪	学校は、教育活動の充実に向けて地域や保護者と連携・協力している。	36	60	4	0	3.3
⑫	学校は、学校・学年だよりやホームページ、配信システム等により、積極的に情報を発信している。	54	44	2	0	3.5
⑬	学校は、言語活動の整備及び展掲示の充実等の環境整備に努めている。	36	54	10	0	3.3
⑭	学校は、学校図書館を活用して、読書活動の充実を図っている。	49	49	2	0	3.5
⑮	学校は、奉仕の心を育てる愛校活動を推進している。	39	56	5	0	3.3
⑯	学校は、未来を考えた、SDGs 教育を推進している。	28	57	15	0	3.1

令和7年度 児童(1・2・3年生)アンケート結果

【評定】 4：とても思う（あてはまる） 3：やや思う（あてはまる）
2：あまり思わない（あてはまらない） 1：全く思わない（あてはまらない）

	質問項目	評定（％）				平均値
		4	3	2	1	
①	じゅぎょうがよくわかり、たのしくがくしゅうにとりくんでいる。	67	27	5	1	3.6
②	ノートとタブレットのよさをつかいわけて、がくしゅうをがんばっている。	75	22	1	2	3.7
③	ぺんきょうやうんどうを、まいにちがんばっている。	74	22	4	0	3.7
④	「いきがいこうりゅうセンターしみず」などのこうりゅうがたのしく、「ふるさとしみず」がすぎである。	71	22	6	1	3.6
⑤	いじめやさべつをゆるさないせいかつをおくっている。	70	14	6	10	3.4
⑥	ちいきのかたやせんせい、ともだちにげんきのよいあいさつをしている。	56	36	7	1	3.5
⑦	じぶんのしょうらいにゆめをもっている。	85	7	6	2	3.8
⑧	はやね・はやおき・あさごはんをまもり、きそくただしせいかつをおくっている。	53	35	9	3	3.4
⑨	てあらいなどをきちんとし、かんせんしょうたいさくをしている。	64	27	8	1	3.5
⑩	こうつうじこにあたりけがをしたりしない、あんぜんなせいかつをおくっている。	78	16	5	1	3.7
⑪	がっこうとしょかんをりょうして、どくしょをたのしんでいる。	66	27	6	1	3.6
⑫	そうじをいっしょうけんめいしている。	79	16	4	1	3.7
⑬	SDGsのいみがわかり、じぶんにできることにとりくんでいる。	61	27	11	1	3.5
⑭	がっきゅうやがくねん、たてわりはんのともだちとなかよくかつどうしている。	76	20	3	1	3.7

令和7年度 児童(4・5・6年生)アンケート結果

【評定】 4：とても思う（あてはまる） 3：やや思う（あてはまる）
2：あまり思わない（あてはまらない） 1：全く思わない（あてはまらない）

	質問項目	評定（％）				平均値
		4	3	2	1	
①	授業がよくわかり、楽しく学習に取り組んでいる。	44	47	8	1	3.3
②	ノートとタブレットのよさを使い分けて、学習に役立てることができている。	65	29	5	1	3.6
③	勉強や運動に、毎日一生懸命取り組んでいる。	48	44	8	0	3.4
④	「生きがい交流センターしみず」などとの交流や総合的な学習で学んだ、「ふるさと清水」が好きである。	48	39	9	4	3.3
⑤	いじめや差別を許さない生活を送っている。	64	27	6	3	3.5
⑥	地域の方や先生、友達に元気のよいあいさつをしている。	43	42	11	4	3.2
⑦	自分の将来に夢をもっている。	61	24	8	7	3.4
⑧	早寝・早起き・朝ごはんを守り、規則正しい生活を送っている。	34	44	18	4	3.1
⑨	手洗いなどをきちんとし、感染症対策をしている。	60	33	6	1	3.5
⑩	交通事故にあたりけがをしたりしない、安全な生活を送っている。	75	20	4	1	3.7
⑪	学校図書館を利用して、読書を楽しんでいる。	34	35	23	8	3.0
⑫	掃除を一生懸命している。	56	41	2	1	3.5
⑬	SDGsの意味が分かり、自分にできることに取り組んでいる。	43	45	9	3	3.3
⑭	学級や学年、縦割り班の友達と仲良く活動している。	61	34	3	2	3.5
⑮	愛校活動を頑張っている。	61	33	5	1	3.5